

「生き残る大学」とは？ カリフォルニアの事例から学ぶ

本研究では、18歳人口の減少、公的資金の削減、コロナ禍など大学を取り巻く厳しい環境を鑑み、「持続可能な小規模私立大学モデル」を探求する。これまでの「コロナ禍とアメリカの大学」の研究をさらに具体化させ、カリフォルニア地域の小規模私立大学の歴史、文化、ガバナンスの分析を試みる。また、調査対象大学で構成されるコンソーシアムのシステム構造と相互補完的機能に着目する。研究対象がカリフォルニア地域の小規模大学である理由は：(1) 日本の大学誕生と同時期にアメリカ西海岸の高等教育は誕生し、欧州や東海岸の影響を受けつつも独自の発展を続けている；(2) 小規模ながら「多様なリベラルアーツ」の特徴を持つ大学・コンソーシアムが高い評価を得ている；(3) 私立大学は、特徴ある人材育成を担い、常に変化し続ける社会的需要と価値観の中で生存・繁栄してきた。これらの点に注目しつつ、小規模私立大学の発展と継続のメカニズムを解明したい。

大学コンソーシアムの地理的近接性



卒業式の風景（南カリフォルニア）



産業界へのアピールポイント

- グローバル社会における高度人材育成と大学の役割：大学がいかに社会や産業界と連携し、持続可能な形で高度な人材育成に取り組むかを考察することは、教育界だけでなく、経済界においても重要な課題といえる。
- リーダー養成におけるリベラルアーツ教育の重要性と進化：リベラルアーツ教育は、批判的思考力、多様性の理解、倫理感を涵養する点で、リーダー養成において極めて重要な役割を果たしている。
- 小規模組織の運営戦略とコンソーシアム機能：小規模組織の特徴である柔軟性や迅速な意思決定能力、濃密な人間関係に加えて、大規模組織の安定感やスケールメリットを実践するためにコンソーシアム機能に注目する。

実用化例・応用事例・活用例

- 組織の継続的な発展における「偶然性」と「必然性」の検証
- コンソーシアム機能のメリット・デメリット
- 持続可能な組織の国際比較



長沢 誠 (ナガサワ マコト) 准教授
大学院人文社会科学研究科

【最近の研究テーマ】

- 「高コスト・高エイド」の高等教育モデル
- 多様なリベラルアーツ教育の可能性
- 大学コストの継続的なインフレーションの未来
- 「格差再生産装置」としての大学：メリトクラシーの再考
- アメリカの政治的分断と州間における頭脳流出・流入